

## 事務局報告

## 第38回(2007年度第5回)幹事会議事要録

日時:2007年10月21日(日)14:00~17:00

場所:東北大学東京分室会議室C

出席者:鈴木会長,能城総括幹事・編集委員長,大山庶務幹事,朝川会計幹事,佐々木(由)広報・渉外幹事,紀藤編集副委員長,大井行事委員長,高橋行事副委員長(以上留任含む旧役員),南木会長,守田事務局長,那須庶務幹事,工藤会計幹事,山本行事委員長,佐々木(尚)行事副委員長(以上新役員)

1. 第6期評議員選挙の結果,鈴木三男,辻誠一郎,百原新,高原光,山田昌久の5会員が次期評議員に選出された。
2. 2007年11月17・18日に,大阪市立自然史博物館において開催する第22回大会の実施計画について検討した。大会のプログラムは,10月25日までに完成し,10月中にニュースレターで全会員に発送する。
3. 第2回学会賞に,辻誠一郎会員を推薦することが報告された。
4. 第15巻2号および第16巻1号の編集状況が報告された。第15巻2号は,11月刊行予定である。
5. 会費滞納による除名対象者について,評議員会での除名手続き準備を行うこととした。
6. 学会事務局業務の一部委託について,検討を行った。

## 第39回(2008年度第1回)幹事会議事要録

日時:2007年11月17日(土)9:00~10:30

場所:大阪市立自然史博物館内会議室

出席者:南木会長,守田事務局長,那須庶務幹事,工藤会計幹事,佐々木(由)広報・渉外幹事,能城編集委員長,大井編集副委員長,佐々木(尚)行事副委員長(以上留任含む新役員),鈴木会長,大山庶務幹事,朝川会計幹事,紀藤編集副委員長,高橋行事副委員長(以上旧役員)

1. 2008年度評議員会・総会での報告事項および審議事項を最終確認した。
2. 第5回奨励賞は,会誌15巻1号掲載の佐々木由香氏ほかの論文に決定したことが報告された。
3. 第23回大会を2008年11月8・9日に,福島大学において開催すべく準備することとした。

## 2008年度評議員会議事要録

日時:2007年11月17日(土)11:00~12:30

場所:大阪市立自然史博物館内会議室

出席者:鈴木・辻・山田・高原評議員,南木会長,守田事務局長,那須庶務幹事,工藤会計幹事,佐々木広報・渉

外幹事,能城編集委員長,大井編集副委員長,佐々木行事副委員長(以上留任含む新役員),大山庶務幹事,朝川会計幹事(以上旧役員)

1. 2007年度の事業報告および会計報告・会計監査報告(総会資料)を承認した。
2. 2008年度事業計画の幹事会案を審議した。主な案件は以下の通りである。
  - 1) 奨励賞の複数回受賞の可否について,奨励賞審査委員会で検討することにした。
  - 2) 会費長期滞納会員14名の除名について,2007年12月15日までに納入がなかった者については除名することとした。
  - 3) 会費長期滞納会員について会費納入・会員継続を促す目的で,名前をニュースレター等で公開するかどうか審議した。今後個人情報保護案件と関連させて幹事会で検討することとした。
  - 4) 名誉会員の選考基準について他学会の動向とともに審議した。
  - 5) 会誌「植生史研究」の編集・刊行について審議した。会員のプロジェクト研究等の成果を特集号として企画するなど,投稿数増加に向けて今後検討することにした。
  - 6) 第13回国際花粉学会議(IPC-XIII)および第9回国際古植物学会議(IOPC-IX)の2012年日本招致について,学会として協力するかどうか総会で承認を受けることとした。

## 2008年度総会議事要録

日時:2007年11月18日(日)11:25~12:15

場所:大阪市立自然史博物館講堂

議長:紀藤典夫

## 1. 報告事項

## 1. 2007年度事業報告

## 1-1. 庶務

- 1) 会員動向(2007年9月30日現在):名誉会員1名,賛助会員1社,一般会員363名,学生会員51名,団体会員7団体(前年度比:名誉±0,賛助±0,一般+7,学生+8,団体+1)。
- 2) 2007年度評議員会を2006年11月25日に,総会を11月26日に,東京大学において開催した。
- 3) 2007年度版会員名簿を編集・刊行した。

## 1-2. 広報・渉外

- 1) ニュースレター9号・10号・11号を編集・刊行した。

2) ホームページの管理と更新を行なった。

1-3. 編集

- 1) 会誌「植生史研究」第15巻第1号を刊行した。
- 2) 会誌特別第2号「三内丸山遺跡の生態系史」を編集・刊行した。

1-4. 行事

- 1) 第21回大会を2006年11月25・26日に、東京大学において開催した。  
大会実行委員長：谷川章雄。大会実行委員：佐藤宏之、樋泉岳二、江口誠一、鈴木伸哉、余語琢磨、高橋 敦。  
参加者：109人。
- 2) 第26回談話会を2007年5月12日・13日に、岐阜県大垣市において開催した。  
テーマ：岐阜県大垣市上石津の里山と前期更新統東海層群多良累層の植物化石。  
案内者：田端英雄、百原 新、大井信夫。参加者：7人。
- 3) 第22回大会を2007年11月17日・18日に、大阪市立自然史博物館において開催すべく準備した。

1-5. 役員選挙

第6期会長および評議員選挙を実施した。

2. 会計

1) 2007年度決算報告(2006年10月～2007年9月)

		単位：円	
収 入		収入予算	
会費(個人)	1,369,000	1,532,000	
会費(団体・賛助)	36,000	51,000	
会誌売上	131,170	100,000	
特別号(2)売上	1,095,420	1,200,000	
寄付金	81,539 <sup>*1</sup>	0	
利息	633	0	
20周年記念品売上	5000 <sup>*2</sup>	0	
前年度繰越金	812,478	812,478	
収入合計	3,531,240	3,695,478	
支 出		支出予算	
会誌印刷費	会誌印刷費15(1)	588,000 <sup>*3</sup>	380,000
	会誌印刷費15(2)	0 <sup>*4</sup>	380,000
	会誌印刷費16(1)	0 <sup>*4</sup>	380,000
	特別号(2)印刷費	1,102,500	1,030,000
会誌郵送費	会誌郵送費15(1)	51,524 <sup>*5</sup>	30,000
	会誌郵送費15(2)	0 <sup>*4</sup>	30,000
	会誌郵送費16(1)	0 <sup>*4</sup>	30,000
	バックナンバー郵送費	0 <sup>*6</sup>	5,000
名簿印刷費	2007年度名簿印刷費	92,400	100,000
大会準備金	大会準備金	100,000	100,000
郵送費	ニュース紙等郵送費	142,950 <sup>*6</sup>	120,000
	選挙関連郵送費	83,205	30,000
	名簿郵送費	0 <sup>*5</sup>	30,000
	郵送補助(人件費)	123,500	120,000
事務経費	一般事務経費	88,694	80,000
	各賞賞状等	6,588	6,000
	幹事会出席旅費	253,680	400,000

封筒印刷費	45,055	50,000
予備費	853,144	394,478
支出合計	3,531,240	3,695,478

- \*1: 大会準備金の余剰金の寄付
- \*2: 20周年記念品販売5個分
- \*3: ページが多かったことと、カラー印刷のため原価が上がった
- \*4: 15号(2)、16号(1)は未刊
- \*5: 会誌と名簿同梱のため会誌郵送費に一括して計上
- \*6: ニュース紙等郵送費にバックナンバー等の郵送費を含む

2) 会計監査報告

「日本植生史学会2007年度収支の諸帳簿、預金通帳及び諸書類などを厳正に監査しましたところ、適正に処理されておりましたので報告します。」

会計監査：叶内敦子。

3. 第2回学会賞

日本植生史学会表彰規定(2002年11月17日制定、2004年11月28日改訂)に則って、学会賞審査委員会(鈴木三男委員長、能城修一・西田治文・南木睦彦・守田益宗各委員)を設置し、審査を行なった。その結果、第2回学会賞は辻 誠一郎会員に決定した。

4. 第5回奨励賞

日本植生史学会表彰規定(2002年11月17日制定、2004年11月28日改訂)に則って、奨励賞審査委員会(鈴木三男委員長、湯本貴和・山本直人・辻誠一郎・守田益宗・西田治文・南木睦彦各委員)を設置し、審査を行なった。その結果、第5回奨励賞は以下の1件の論文に決定した。

受賞論文：佐々木由香・工藤雄一郎・百原 新「東京都下宅部遺跡の大型植物遺体からみた縄文時代後半期の植物資源利用」、植生史研究 第15巻：35-50。

5. 会員の除名

会費の長期滞納により14名の会員について、2007年12月15日まで納入がない場合は除名することとした。

2. 審議事項

1. 名誉会員の推薦

日本植生史学会会則第4条bに則り、評議員会より推薦された2名の会員を名誉会員とする。

名誉会員の候補者：大場秀章、三好教夫。

賛成多数で承認された。

2. 2008年度事業計画

2-1. 庶務

1) 事務局を総合研究大学院大学葉山高等研究センターに移転する。

2) 2008年度評議員会・総会を2007年11月17日(土)・

18日(日)に大阪市立自然史博物館において開催する。

## 2-2. 広報・渉外

- 1) ニュースレターを編集・刊行する。
- 2) ホームページの管理と更新を行なう。

## 2-3. 編集

- 1) 会誌「植生史研究」第15巻第2号, 第16巻第1号・第2号を編集・刊行する。

## 2-4. 行事

- 1) 第22回大会を2007年11月17日(土)・18日(日)に大阪市立自然史博物館において開催する。

大会実行委員長: 塚腰 実。大会実行委員: 南木睦彦, 佐久間大輔, 大井信夫。

- 2) 第27回談話会を準備する。

- 3) 第23回大会を2008年11月8日(土)・9日(日)に, 福島大学において開催すべく準備する。

大会実行委員長: 木村勝彦。大会実行委員: 未定。

## 3. 会計

### 1) 2008年度予算案

収 入		単位: 円
会費		1,504,000 <sup>*1</sup>
団体・賛助会員会費		57,000 <sup>*2</sup>
会誌売上		100,000
広告費		50,000 <sup>*3</sup>
特別号(2)売上		180,000
利息		600
前年度繰越金		853,144
収入合計		2,744,744
支 出		
会誌印刷費	会誌印刷費 15 (2)	430,000
	会誌印刷費 16 (1)	380,000 <sup>*4</sup>
	会誌印刷費 16 (2)	380,000 <sup>*4</sup>
会誌郵送費	会誌郵送費 15 (2)	30,000
	会誌郵送費 16 (1)	30,000
	会誌郵送費 16 (2)	30,000
大会準備金	大会準備金	100,000
郵送費	ニュース紙等郵送費	140,000
	郵送補助(人件費)	120,000
事務経費	一般事務経費	80,000
	幹事会出席旅費	500,000 <sup>*5</sup>
	封筒印刷費	40,000 <sup>*6</sup>
予備費	予備費	404,744
支出合計		2,744,744

\*1: 一般会員 352 名×4000 円+学生会員 48 名×2000 円。会員数は 2007 年 10/31 現在から除名者を除いた

\*2: 団体会員 7 団体×6000 円, 賛助会員 1 社×15000 円

\*3: 前年度名簿掲載の広告代

\*4: 一昨年度実績から算出した金額

\*5: 新旧合同幹事会および役員全員が名古屋に 3 回集まる交通費から算出

\*6: 事務局移転にともない、必要な印刷費を計上

賛成多数で承認された。

## 2) 会計監査

幹事会より小椋純一会員が推薦され, 賛成多数により承認された。

## 4. その他

第13回国際花粉学会議(IPC-XIII)および第9回国際古植物学会議(IOPC-IX)の2012年日本招致について, 学会として協力するという提案が承認された。

### 第2回学会賞

日本植生史学会表彰規定(2002年11月17日制定, 2004年11月28日改訂)に則って, 学会賞審査委員会(鈴木三男委員長, 能城修一・西田治文・南木睦彦・守田益宗各委員)を設置し, 審査を行なった。その結果, 第2回学会賞は以下の1名の会員に決定した。

受賞者: 辻 誠一郎

推薦理由(日本植生史学会学会賞審査委員会委員長 鈴木三男)

辻誠一郎氏は日本大学文理学部の学部生時に花粉分析による植生復元の研究分野に入ってから以来, 大阪市立大学, 国立歴史民俗博物館, そして現在の職場に至るまで30年以上にわたり, 自らは花粉分析の手法を中心としながらも, 地質層序学, 地形・地理学, 堆積学, そして花粉のみならず大型植物遺体, 材化石, 珪藻分析などの諸分野に深く関わり, 植生史と環境変遷史の第一人者として研究を続けてこられた。

この間の彼の研究活動はめざましいものがあり, 幾多の学術論文の他, 『考古学と植物学』(同成社, 2000年)を企画し, 自らも分担執筆しながら全体の編集を行うなど, 多数の著書の執筆, 編集, 出版に関わって, この分野の啓蒙, 普及, 教育活動を先頭に立って実践してきており, その業績は非常に大きいものがある。辻氏は植生復元から植生史, 更に拡げて環境史としてこれらの研究を展開するにあたり, 共同研究者と一緒にあって実際の遺跡現場で討論し, サンプルングし, 分析を行い, その結果について現場を目の前にして議論しあうことにより, 単に異分野の研究者の寄せ集めでない, 本当の意味の総合研究を指導, 実践してきたことも特筆に値する。

これらの研究業績と共に辻氏のもう一つの大きな業績に, 学会活動への貢献がある。氏は日本第四紀学会の中心的会員の一人として評議員, 幹事等の役職を通してその活動に大きく貢献してきているが, それよりも本学会における氏の貢献度は特段のものである。氏は本学会の前身である「植生史研究会」が1986年2月に発足するにあたり, その組織化の中心となって尽力し, 研究会の代表としては会



の運営に携わったばかりでなく、同年8月の「植生史研究」第1号の発刊以来、長らく編集委員長を努めてきた。そして1996年の日本植生史学会への発展は、正に氏の獅子奮迅の働きがあつてなつたものと言つて過言ではない。以来、研究会時代に増して事務局長、編集委員長、会長を歴任され、ますます本学会の発展に尽くされてきた。

以上紹介したように、辻氏の研究、教育の業績と、植生史学および日本植生史学会の発展への貢献は極めて大きく、ここに第2回日本植生史学会学会賞を贈り、その業績を顕彰するものである。

#### 第5回奨励賞

日本植生史学会表彰規定(2002年11月17日制定、2004年11月28日改訂)に則つて、奨励賞審査委員会(鈴木三男委員長、湯本貴和・山本直人・辻誠一郎・守田益宗・西田治文・南木睦彦各委員)を設置し、審査を行なつた。その結果、第5回奨励賞は以下の1件の論文に決定した。

受賞論文:佐々木由香・工藤雄一郎・百原 新「東京都下宅部遺跡の大型植物遺体からみた縄文時代後半期の植物資源利用」, 植生史研究 第15巻:35-50。

推薦理由(日本植生史学会奨励賞審査委員会委員長 鈴木三男)

本論文は、下宅部遺跡という情報量の多い遺跡に着目し、遺跡内での種実遺体群の産出状況を克明に捉え、木材など他の資料を総合して、縄文時代における複合的・重層的な植物資源利用の具体像と生活空間における場所性という二つの要素を明確に描きだしている。これまでの種実遺体群の調査・研究が、人の活動から距離をおいた、資料群の統計処理に終始していたのと比較して、発掘調査に即しながら膨大な資料群を整理するという、きわめて地道な作業の蓄積によって得られた成果は大きい。本論文は、今後の低地遺跡における大型植物遺体調査手法に指針を与えるだけでなく、植生史研究および植物考古学にとって新たな領域を開拓した点で高く評価できる。

#### 名誉会員の推薦

日本植生史学会会則第4条bに則り、評議員会より推薦され、総会によって承認された2名の会員を名誉会員とします。

大場秀章会員

推薦理由

大場秀章氏は1943年のお生まれで、1969年に東京農業大学、東京大学大学院に進学、東北大学理学部助手、東京大学理学部助手・講師、東京大学総合研究資料館助教授、

教授を歴任され、2006年に定年退職された。現在は東京大学名誉教授として東京大学総合研究博物館において特任研究員として研究を続けておられる。

大場氏は学位論文でベンケイソウ科植物の系統分類の研究をされて以来、日華・Sino-Himalaya植物相の分類学的研究を行つてこられ、その延長として、日本の植物相や植生の変遷史にも関心を抱き、特に日華植物区系区や、小笠原・琉球列島の植物相・植生の起原・発展について研究された。

植生史研究第8号にも寄稿されているように、地球温暖化に関する政府間パネル(IPCC)で植生への影響に関する環境庁各種検討委員として執筆にも関わつた。また、専門的立場から植物種多様性の保全・保護に関する各種委員会委員を務められた。

1990年代以降は、植物と人間との関わりへの関心から、植物文化史や、植物学史、園芸、植物画などの分野にも研究の範囲を拡げられた。

このように大場秀章氏は植物分類系統学を基礎としながらも、植物を取り巻く多角的な領域において業績をあげておられ、その立場から本学会へも寄稿やシンポジウムでの講演などで多大な貢献をされてきた。こうした貢献に鑑みて、ここに大場氏を名誉会員に推薦する。

三好教夫会員

推薦理由

三好教夫氏は1937年のお生まれで、1960年高知大学を卒業後、広島大学大学院を修了、同研究生を経て、1966年岡山理科大学講師に赴任、爾来、2008年3月末をもって35年間におよぶ教授生活を終え退職される予定である。

三好氏は、はじめ蘚苔類の胞子形態を光学顕微鏡や電子顕微鏡により研究されていたが、ワシントン大学留学後の1970年代中頃からは、主に中国地方の湿原堆積物の花粉分析を行ない、その植生史解明に努力された。1990年頃からは世界的視野から長期環境変動のサイクルと植生変化の関係を解明するべく、徳佐盆地、琵琶湖、バイカル湖などのロングコアの花粉分析を推進してこられた。また、走査型電子顕微鏡観察の第一人者として、1980年以降日本産植物の花粉形態研究を精力的に継続されてきた。三好氏の研究上の大きな業績は、それまで科や属レベルまでであった化石花粉の同定精度を、走査電顕を使用することにより種レベルまで拡大する道筋をつけたことであり、花粉分析という手法の可能性をさらに高めた事である。また、「花粉学事典」や「日本列島植生史」の編纂をつうじ花粉学や植生史学の啓蒙活動にも努めてこられた。本学会に対しては花粉学の立場から、常に暖かい助言と援助を惜しまな

かった。これら、氏の植生史学を含む花粉学への貢献と本学会への功績は著しく、ここに三好教夫氏を名誉会員に推薦する。

### 日本植生史学会第22回大会

2007年11月17・18日の2日間、大阪市立自然史博物館において、第22回大会が開催された。詳細は以下の通りである。

会場：大阪市立自然史博物館

大会実行委員長：塚腰 実

実行委員：佐久間大輔、大井信夫、南木睦彦

日程：11月17日（土）公開シンポジウム、奨励賞・学会賞授賞式および講演、懇親会

11月18日（日）一般研究発表、ポスター発表、総会

公開シンポジウム「100万年、10万年、1万年スケールで見た大阪湾周辺の植生と環境の移り変わり」（総合討論・司会：南木睦彦）

大井信夫：100万年の植生史—大阪湾海成粘土層と周辺地域の化石花粉群をもとに

林 竜馬：10万年の植生史—琵琶湖、神吉盆地、黒田低地の花粉分析からみる気候変動に対する植生の応答

辻本裕也：1万年の植生史—大阪湾岸地域の考古遺跡における古植生調査をもとに

### 一般研究発表（口頭発表）

大久保 敦：前期白亜紀東アジアにおける植生の時空分布  
南澤 修・松本みどり・百原 新・山川千代美・植村和彦：古琵琶湖層群に含まれる2つの植物化石群の組成と、そこから復元される古環境

西田治文・音谷紗絵：高解像度X線CTによる植物鉱物化石観察の実例と応用への将来性

塚腰 実・南木睦彦・百原 新：大阪市立自然史博物館に収蔵されている三木 茂博士コレクション—植物化石および現生植物のプレパラート標本・液浸標本—

此松昌彦・久保田 航・川崎雅史：和歌山県有田川町野田地区遺跡における花粉分析からみた植生史

那須浩郎：東アジア新石器時代遺跡におけるイネとアワの同定の重要性：栽培種か野生種か？

上中央子：河内平野南部における縄文時代晩期以降の植生変遷—長原・瓜破遺跡を例として—

木村勝彦・荒川隆史：縄文時代晩期出土のクリ木柱の年輪解析  
西本 寛・高田秀樹・中村俊夫：石川県真脇遺跡出土環状木柱列の<sup>14</sup>C年代測定

本郷美佐緒・水野清秀・山口正秋・納谷友規：関東平野菖蒲コアにおける約45万年前以降の花粉化石群変遷と本邦消滅属ハリゲヤキ属花粉化石の産出状況

渡辺正巳：山陰地方における完新世のスギの分布

安 昭炫・辻 誠一郎：山口県「宇生賀コア」の花粉分析からみた過去3万年の植生史

箱崎真隆・木村勝彦・吉田明弘・平野信一：木材化石群集からみた猪苗代湖鬼沼埋没林の古植生

中田 誠・細尾佳宏：新潟県中越沖地震後に出雲崎沖の海底に出現した古木の樹種組成

### 一般研究発表（ポスター発表）

佐久間大輔・塚腰 実・那須孝悌・趙 哲濟・清水和明：大阪市立自然史博物館の現世・最終水期最寒冷期対比植生図について

渋谷綾子：日本先史時代の石製加工具におけるデンプン質残留物

佐々木由香・能城修一・鈴木三男：縄文時代の遺跡から出土する編組製品の素材同定

小林克也・松田泰典・北野博司：古代須恵器窯業における森林利用方法の一考察—山形県高島町高安窯跡群を例に—

井上 淳・西村 亮・高原 光：湿原堆積物を用いた奈良県曾爾高原の過去1,000年間の山焼きの歴史

西村 亮・高原 光・松下まり子：近江盆地布施溜周辺における過去3,000年間の植生変遷と人間活動

山口誠治：都市開発に伴う植生史の変遷（水生植物の危機）

北川陽一郎・吉川周作・高原 光・山崎秀夫：花粉分析に基づく大阪地域における過去1,500年間の植生変遷

吉田明弘・吉木岳哉：岩手山南東麓春子谷地湿原における約13,000年前以降の古環境の変遷

佐々木尚子・高原 光・真鍋智子：京都盆地および丹波山地における晩水期以降の火事史

小椋純一：岡山県北部中国山地における微粒炭分析（1）

中村琢磨・高原光・大野啓一：湿原の大きさと湿原表層堆積物の花粉組成の関係

池田重人・岡本 透・志知幸治・橋本 徹・若松伸彦：栗駒山のオオシラビソ小林分の変遷—林分内の土壌試料による花粉分析結果—

藤井理恵・酒井治孝：中央ヒマラヤのカトマンズ盆地堆積物に記録された過去約20万年間の植生・環境変動

江口誠一・岡田直紀・Somkid Siripatanadilok・Teera Veenin：タイ東北部サケラートにおけるフタバガキ科植物珪酸体の形態と地層からの産状

矢部 淳・山川千代美：古琵琶湖層群の植物遺体を用いた「植生史研究」体験実習の試み

### 第40回（2008年度第2回）幹事会議事要録

日時：2008年1月26日（土）13：00～17：00

場所：名古屋大学文学部考古学リテラチャーラボ

出席者：南木会長、守田事務局長、那須庶務幹事、工藤会計幹事、佐々木（由）広報・渉外幹事、能城編集委員長、大井編集副委員長、山本行事委員長、佐々木（尚）行事副委員長

1. 新入会員1名+1団体、退会者5名、除名者13名が報告された。現在の会員数は名誉会員3名、賛助会員1社、一般会員370名、学生会員31名、団体会員8団体。
2. 植生史研究の編集状況が報告された。第16巻1号の

- 査読がほぼ終了し、3月末に発行予定。
3. ニュースレター No.13 を発行したことが報告された。
  4. 学術著作権協会に著作物複製利用に係わる権利を委託する件について審議を行い、承認した。
  5. 学会事務の外部委託について審議したが、次回幹事会で再度検討することになった。
  6. 奨励賞に関する内規の改正について審議し、以下のよう  
に改正することが承諾された。「5. 各委員の意見を加味して、審査委員長が受賞者を決定し、総会にて報告する。なお、賞状は幹事会にて準備する。」(2008年1月26日改正)
  7. 会則の雑誌掲載について審議を行い、第16巻1号に会則を掲載することにした。
  8. IPC 検討委員会候補者について審議し、高原光、西田治文、朝川毅守、池田重人の4会員を候補者として選出した。
  9. バックナンバーの割引販売について審議し、次号発行以降にセール販売を行うこととした。
  10. 雑誌の委託販売について審議した。発行後1年間は学会でバックナンバー10部を確保し(学会取り置き分5部を除く)、残りは業者より希望があれば委託販売することにした。
  11. ニュースレターの発行について審議し、経費削減のため、今年度中に電子化(ホームページ上にPDFファイルでニュースレターを掲載し、メーリングリストで通知する)に移行する方向で検討する。
  12. 学生会員の確認について審議し、今後は会費の振替用紙に学生会員継続の指導教官印を押印してもらうことにした。
  13. 次回談話会は、「漆にかぶれよう」・「漆のすべて」というテーマで8月2日(土)～3日(月)の日程で岡山県で開催する予定。また、「花粉化石の分析・観察法」についても10～11月に岡山理科大学と共催で開催できるかどうか検討する。
  14. 日本植生史学会第23回大会の日程を2008年11月15(土)・16(日)・17(月)日に変更する。前回予定していた11月8・9・10日は、日本考古学協会秋季大会と日程が重なるため。
  15. プライバシーポリシーのHP掲載について審議した。他学会の動向もふまえて検討した結果、ごく簡単なものを一文程度で掲載することにした。

#### 日本植生史学会第27回談話会

第27回談話会を2008年8月2(土)・3(日)日に、岡山県において開催します。備中漆の里を訪れて、つい最近まで漆が採集されていた漆畑を見学し、新たに植栽された

漆畑において漆採集の実際や日本各地から集めた漆品種の生育状況を見学する。

テーマ：「漆にかぶれよう」(仮題)

世話人：扇崎 由、守田益宗、能城修一。

#### 日本植生史学会第23回大会

第23回大会を2008年11月15(土)・16(日)・17(月)日に、福島大学において開催します。今回は、通常の大会のほかに、17日に巡検を計画しております。前回予定していた11月8・9・10日は、日本考古学協会秋季大会と日程が重なるため変更いたしました。ご注意ください。

大会実行委員長：木村勝彦。

大会実行委員：(未定)

シンポジウム・テーマ：(未定)

#### 会員動向(2007年10月～2008年2月)

新入会員

山口 徹(一般)

慶応大学文学部・民族学考古学研究室

西本 寛(学生)

名古屋大学年代測定総合研究センター

早稲田大学図書館資料管理課(団体)

退会会員(除名者を含む)

奥富 清、小野 昭、広木詔三、三野紀雄、綿野泰行、小山弘道、富樫雅彦、中村裕子、仁田坂英二、野手啓行、橋屋光孝、長谷部智洋、藤原道郎、牧田 肇、松下啓佑、松藤和人、三次福太郎、葭矢崇司

#### 第6期日本植生史学会役員

(任期：2007年10月1日～2009年度大会)

会長：南木睦彦

評議員：鈴木三男、高原 光、辻 誠一郎、百原 新、山田昌久

幹事：守田益宗(事務局長)、那須浩郎(庶務)、工藤雄一郎(会計)、佐々木由香(広報・渉外)

編集委員会：能城修一(委員長)、大井信夫(副委員長)

行事委員会：山本直人(委員長)、佐々木尚子(副委員長)



日本植生史学会会則（2006年11月26日改正）

第1条（名称） 本会は日本植生史学会（Japanese Association of Historical Botany）という。

第2条（目的） 本会は植生史を中心とする関連各分野の諸問題を解明し、植生史研究の発展と普及をはかることを目的とする。

第3条（事業） 本会は上記目的を達成するため、次の事業を行う。

- a. 会誌「植生史研究」通常号を発行する。
- b. 会誌「植生史研究」特別号を不定期に刊行する。
- c. 学術講演会、シンポジウム、談話会などを開催する。
- d. 国内外の学術団体との連絡および交流を行う。
- e. その他本会の目的を達成するために必要な事業を行う。

第4条（会員） 会員は正会員（一般会員および学生会員）、名誉会員、団体会員および賛助会員とする。

- a. 正会員は一般会員および学生会員からなり、植生史研究に関心を持ち、本会の趣旨に賛同する個人である。学生会員は大学等に在籍する学生、大学院生、研究生等である。
- b. 名誉会員は植生史学に顕著な功績のある会員、もしくは本会の発展に寄与した会員の中から、評議員会が推薦し総会の承認を受けた個人とする。名誉会員は会費の納入を要しない。
- c. 団体会員は会誌を定期的に購読する機関である。
- d. 賛助会員は本会の目的を賛助する会社その他の法人とする。
- e. 会費は前納制とする。会費に「植生史研究」特別号の代金は含まれない。会費額は付則に定める。
- f. 会員は会誌の配付を受け、会誌に投稿し、本会主催の諸会合に出席することができる。
- g. 会員の除名は、会費を滞納し、または、本会にふさわしくない行為等を行った会員について会長が発議し、評議員会で決定する。除名された元会員が再入会を希望する場合は、会長に申し出て、評議員会の承認を受けるものとする。

第5条（総会） 本会の最高議決機関として正会員で組織される総会をおく。総会は年1回、会長が招集する。総会での議決は出席者の過半数の賛成をもって行う。

第6条（会長） 本会に会長をおく。会長は本会を代表し、

会務を統括する。会長は別に定める選挙規定により正会員の中から選出される。任期は2年とし、3期務めることは出来ない。

第7条（幹事会） 本会に幹事会をおく。幹事会は会長、幹事および各委員会の委員長、副委員長で構成され、本会の運営を行う。

a. 幹事は庶務幹事、会計幹事、渉外幹事、その他会長が必要と認めた幹事とする。幹事は会長が選任し、評議員会及び総会に報告する。幹事の任期は2年とし、再任、重任を妨げない。

b. 本会に編集委員会、行事委員会その他の会長が必要と認めた委員会をおく。各委員会の委員長、副委員長は会長が選任し、評議員会及び総会に報告する。各委員会の委員は当該委員長が会長に推薦し、会長がこれを委嘱する。正副委員長及び委員の任期は2年とし、再任、重任を妨げない。

第8条（評議員会） 本会に評議員会をおく。評議員会は評議員で構成され、本会の運営にかかわる重要事項を会長の諮問に応じて審議する。評議員の定数は選挙の行われる年度の正会員数を100で割った値とし、端数は繰り上げる。評議員は別に定める選挙規定により正会員の中から選出される。会長、幹事及び各委員会の正副委員長との重任は出来ない。評議員の任期は2年とし、連続して3期務めることは出来ない。

第9条（財政） 本会の経費は会費、事業収入、寄付金等の収入をもってあてる。会計年度は毎年10月1日に始まり9月30日に終わる。会長は会計年度間の収支決算を次の総会に報告し、その承認を受けなければならない。

第10条（会計監査） 本会に会計監査1名をおき、正会員の中から総会において選出する。会長、評議員、幹事及び各委員会の正副委員長との重任は出来ない。任期は2年とし再任を妨げない。

第11条（会則変更） 本会則の変更には総会における出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

付則1 本会事務局は会長が定める住所に置くものとする。

付則2 年会費は、一般会員4,000円、学生会員2,000円、団体会員6,000円、賛助会員一口15,000円とし一口以上とする。

付則3 この会則は2006年11月26日から施行する。